

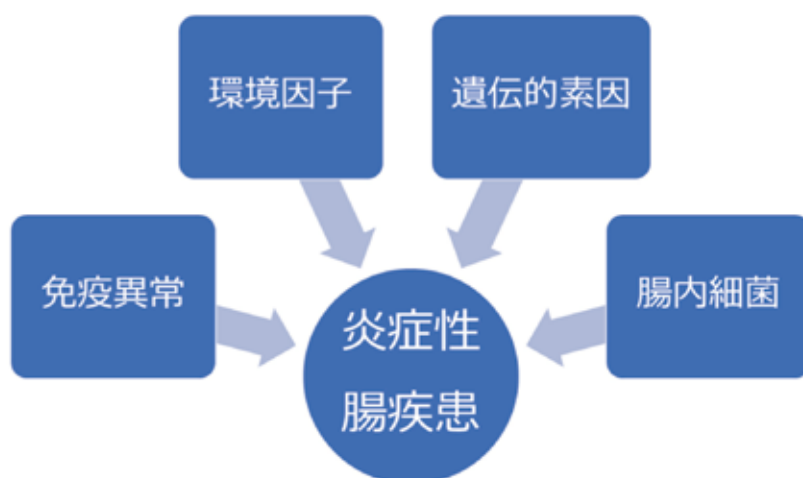


シーズ名 炎症性腸疾患におけるバイオマーカーの開発

氏名・所属・役職 山上 博一・医学研究科 消化器内科学・講師

<概要>

- クロウン病や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患は厚生労働省による難治性疾患克服研究事業の対象疾患であり大腸をはじめとする消化管に潰瘍やびらんなどの炎症を来す疾患である。
- 近年患者数は増加傾向にありクローン病は4万人、潰瘍性大腸炎では17万人を越えて増加している。
- 環境因子、免疫異常、遺伝的素因、腸内細菌などがその病態に関与していると考えられているが明らかではない。
- 炎症性腸疾患患者や健常者の糞便中の腸内細菌叢を検討することで疾患特異的な細菌叢や疾患活動性と関連する腸内細菌叢について検討しバイオマーカー開発につなげることを目標とする。



<アピールポイント>

ヒトを対象とした研究で実用化に直結する。

<利用・用途・応用分野>

炎症性腸疾患の活動性の評価、発病の原因を解明することで新規治療、予防治療への応用が見込まれる。

<関連する知的財産権・引用文献・学会発表など>

なし

<関連するURL>

<http://osaka-cu-gastro.jp/gastroenterology/>

<他分野に求めるニーズ>

なし

キーワード

炎症性腸疾患、腸内細菌、バイオマーカー